

こども宅食利用家庭1,000世帯における
新型コロナウイルスの影響に関する
アンケート調査報告書
〈京都こども宅食 記者会見用資料〉

2020年7月29日



こども宅食応援団

実施地域と対象世帯

全国でこども宅食を実施している4つの団体に協力していただき、合計で**1,015世帯**からアンケートの回答を得ることができた。

実施団体	ひとり親家庭福祉会ながさき
対象世帯	つなぐBANKに登録している226世帯
回答数	149 (回答率66%)

長崎

京都

実施団体	社会福祉法人 あだち福祉会
対象世帯	2020年2月と3月に配送を実施した京都こども宅食の対象世帯134世帯
回答数	70 (回答率52%)

実施団体	熊本県ひとり親家庭福祉協議会 とととて
対象世帯	熊本県内のひとり親世帯のうち協議会のLINEに登録している1,350世帯
回答数	726 (回答率54%)

熊本

宮崎

実施団体	一般社団法人らしくサポート
対象世帯	都城市周辺地域を含むひとり親世帯会員の75世帯
回答数	70 (回答率93%)

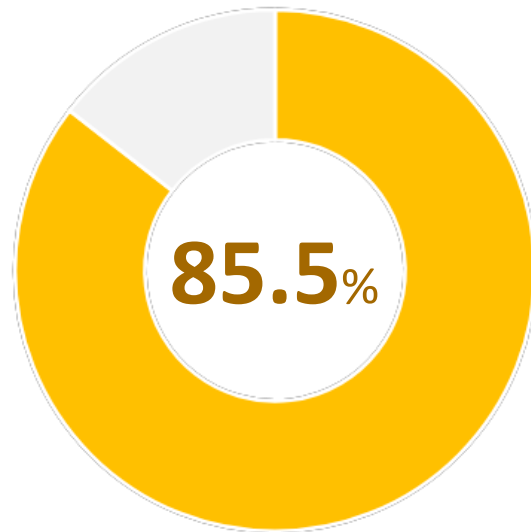
アンケート調査の実施内容

実施日時	2020年5月13日～5月25日
実施方法	Questant（マクロミル）を利用したWebアンケート
実施者	こども宅食応援団、認定NPO法人フローレンス
対象世帯	京都、宮崎、長崎、熊本でこども宅食を利用している子育て世帯
世帯数	1,015世帯（長崎：149世帯、京都：70世帯、熊本：726世帯、宮崎：70世帯）
回収率	56.9%（長崎：66%、京都：52%、熊本：54%、宮崎：93%）

今回の調査対象の「こども宅食の利用世帯」とは？

年収300万円未満が大半を占めています。

年収300万円未満の世帯



1

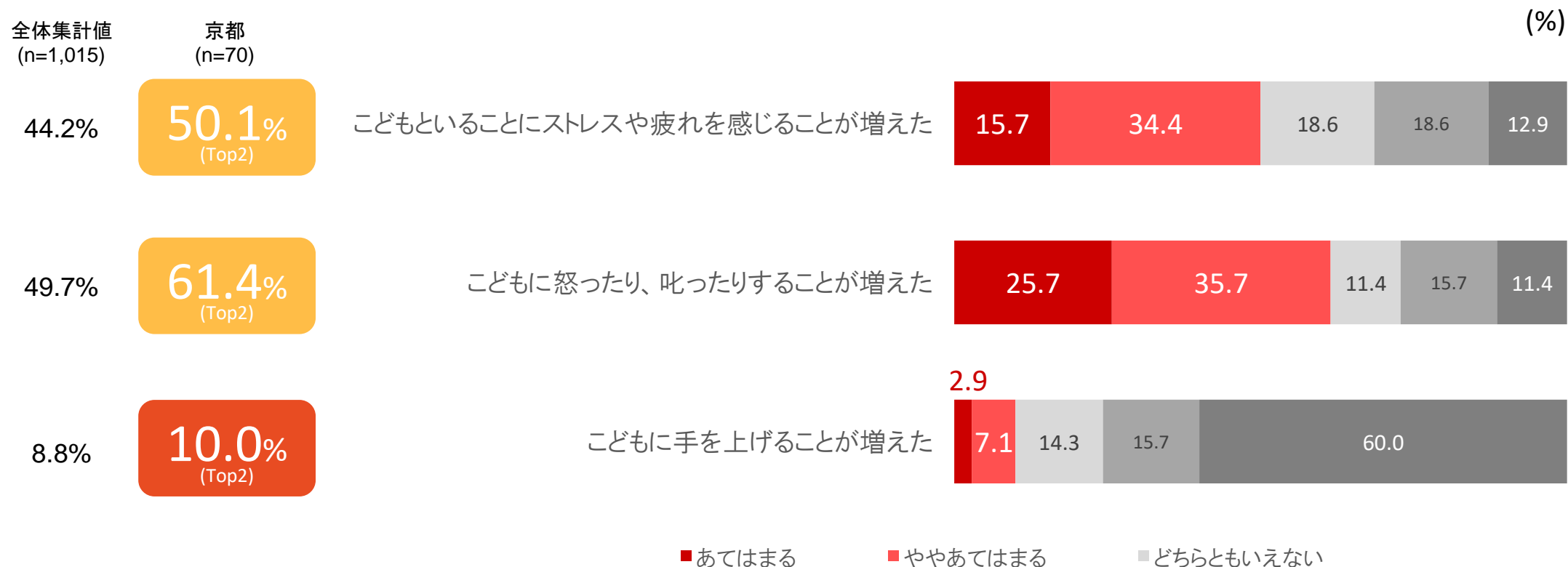
コロナ禍において、生活はより苦しくなっているのでは？
また、具体的にどのような変化、影響がでているのか？

- コロナ禍以前に比べて、
約8割の家庭で生活はより苦しいものになっている。
- コロナ禍で最も影響が大きかったのは支出が増えたこと。
収入の減少よりも、支出の増加の影響の方が大きい。
疲労や精神的な不安、家事、育児のストレスの影響も大きくなっている。
- 支出の増加については、20-40%程度増えている人が最も多く、
ついで40-60%程度となっている。これら2つで全体の半数以上を占めている。



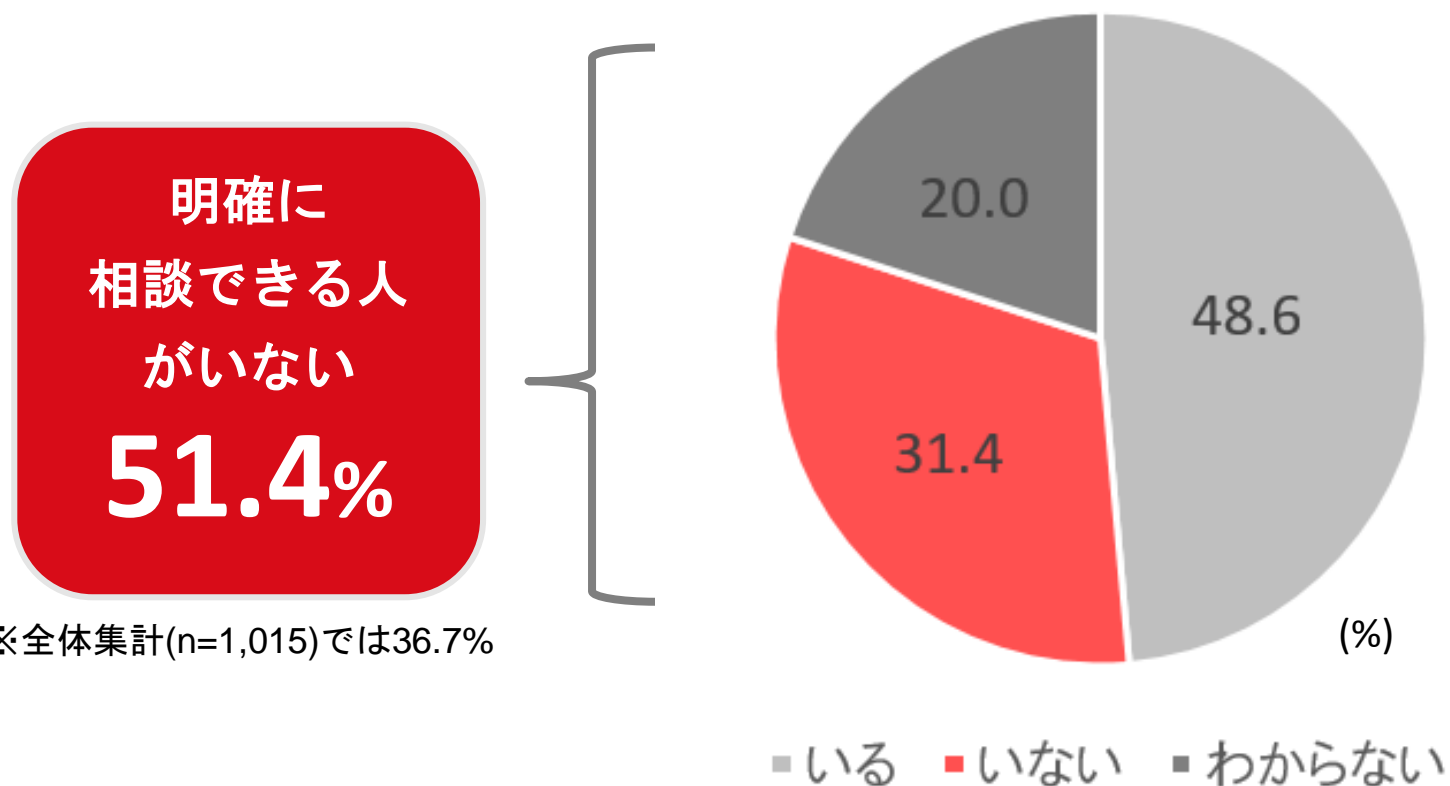
こどもに対して怒ったり、叱ったりする行動が増えている。特に、一部の家庭では、**こどもに手を上げることも増えている、家庭内のストレスが高まっている。**

ご自身とお子さんとの関わりについて、あてはまるものをお選びください。

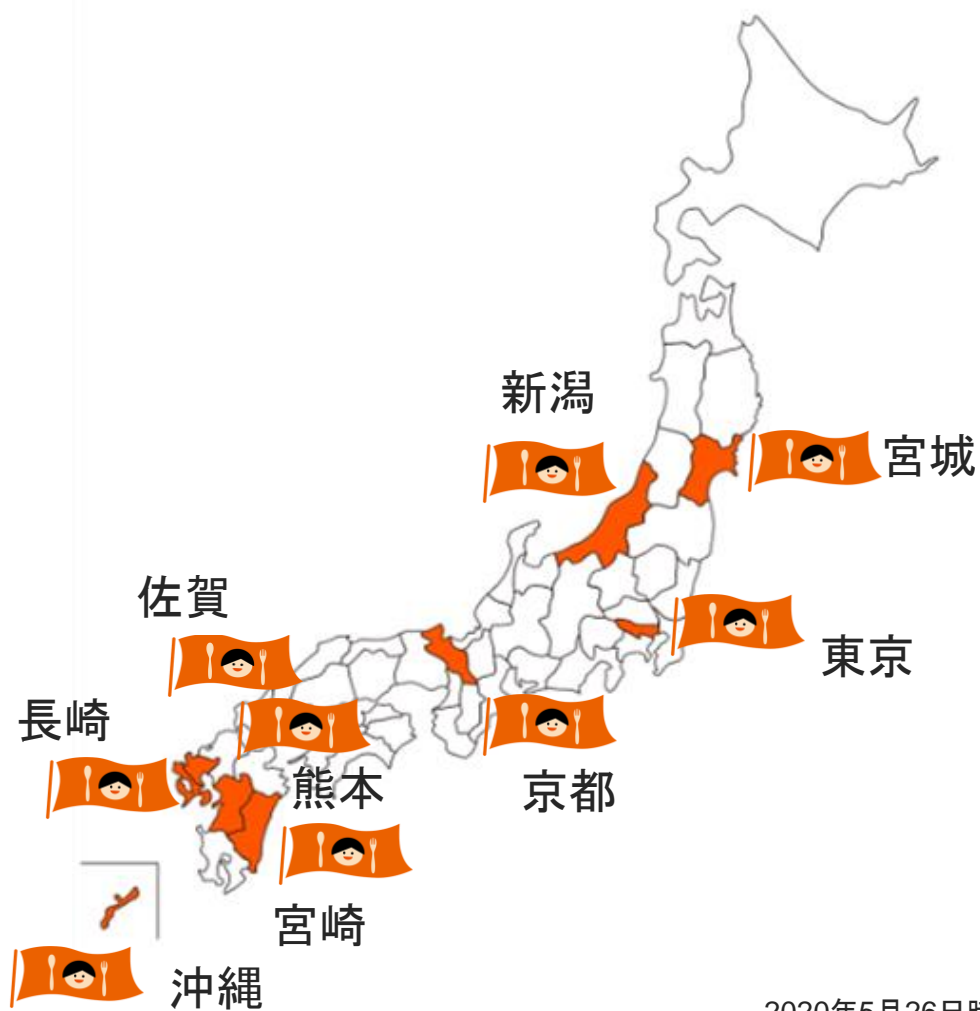


「相談できる人、手助けしてもらえるがない」もしくは「わからない」の回答を見ると、
京都では5割以上が相談できる人が明確にいない状態になっている

現在、生活や子育てに困ったときに相談できる人、何か会ったときに手助けしてもらえる人はいますか？



こども宅食、全国に拡大中！



2020年5月26日時点
コロナ緊急支援も含む

応援団が連携して

こども宅食が
始まった地域数

14 地域

応援団が連携している

こども宅食を
実施している団体数

19 団体

地域の特性にあわせた
多様な事業が各地で生まれています！

こども宅食応援団への質問などは、以下のメールアドレス宛にご連絡ください。

info@hiromare-takushoku.jp

下記の情報を記載して、ご連絡ください。

- ・ お名前
- ・ メールアドレス
- ・ 電話番号
- ・ お問い合わせ内容

お問い合わせ受付時間は、平日9：00～18：00です。

※土・日・祝日・12月31日～1月3日を除きます。受付時間外の場合、恐れ入りますが、返信は翌営業日までお待ちいただけますと幸いです。どうぞよろしく願いいたします。